



日本キリスト教団
三軒茶屋教会
<http://sanchurch.jp/>

三軒茶屋 教会通り

〒154-0024
第61号 2020年3月発行 東京都世田谷区三軒茶屋1-31-5
TEL/FAX: 03-3418-4933
発行：三軒茶屋教会 広報部

「伝道が振るわず、なかなか成果が見えない。」今、多くの教会が危機感をもってそうつぶやいている。少子高齢化、地域社会の過疎化、生活スタイルの多様化、宗教そのものに対する世間の考え方など、ほぼ同じ原因が都市部にも地方にも及んでいると考えられている。

では、教会内部はどうだろうか。教会の生命線は毎日曜日朝の主日礼拝を守ることにある。教会は規模の大小に関わらず、信徒と教師が主日礼拝に持てるもの全てを集中させているかどうか問われる。

説教者の準備は当然として、司牧者や奏楽者も重要な役割を負っている。受付や音響の奉仕も欠かせない。会計や事務的な奉仕も主日礼拝を守るためである。どの教会でもそうした務めは怠つてはいないはずだ。

では、主日礼拝に集まっている者たちの姿はどうであろう。

朝早くから教会に来て、静粛を求めている来会者の傍らで親しい者どうしの楽しいおしゃべりに夢中になっている。新来会者を歓迎しようとしていない。堂々と遅刻して礼拝堂に入って来る教会員が多い。スマホの操作ばかりしている。財布に残

っている小銭を献金として。対立し合っている者たちが険悪な雰囲気や礼拝に持ち込んでいる。有力信徒のご機嫌を忖度している。

説教は冗長で時事問題を評論するだけで、特定の社会的問題への批評をことさらに主張し続けている。

もし、主日礼拝がそうであったとしたら、伝道の力は生じない。いくら有名な講師に招いても、何度コンサートを開催しても、どんなにチラシを配布しても、期待している「成果」は決して現れ出ないだろう。

礼拝する民——伝道の秩序

牧師 **伊藤英志**

なぜなら、教会の生命線である主日礼拝に集う者たちが、礼拝する者になつていないからである。

礼拝する民は、主日礼拝を出発点とし、次の主日礼拝を目指して一週間を整える。朗読される聖書箇所を事前に読み、体調を整え、あらかじめ献金を取り分け、主日礼拝の奉仕者たちとまだ見ぬ新来会者のために祈り、週日の集会にも出席を心掛ける。そして日曜日朝、心鎮めて礼拝堂の席に座り、心身ともに礼拝開

始の時に備える。

そこに礼拝の秩序が保たれている人々の群れが生じる。老若男女がそのような秩序ある礼拝者の群れであれば、その教会が発揮する伝道の力はおのずと輝きを放つ。

もし、伝道の不振を嘆くのであれば、主日礼拝の秩序、礼拝者としての秩序が自らの内に明確に整っているかをまず吟味しなければならない。教会には、人間が礼拝する者たちとなった時の秩序が現れ出る。その秩序の現れこそが、神の御心に適う



人間の群れを形成し、福音伝道の力を発揮していく。

伝道の力とは、新来会者にとって「心の内に隠していたことが明

るみに出され、結局、ひれ伏して神を礼拝し、『まことに、神はあなたがあたの内にいらっしゃいます』と皆の前で言い表すようになる力である。(I コリント14章25節)

その力は、その教会で礼拝する民が保っている秩序から生じる。教会と礼拝に結ばれた生活は、礼拝の秩序と伝道の秩序を整えていく。

主なる神は、天にあるご計画を地上に現すために、その礼拝者たちを今日も用いてくださっているのだ。